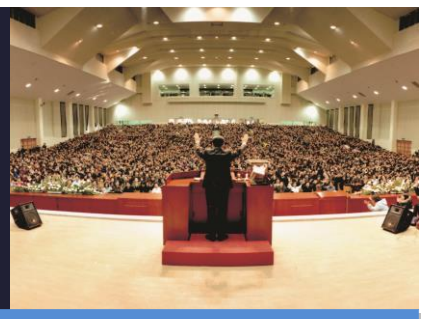
第 2018-04 号

恵みと真理のニュース



2018 年 1 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

重なる苦難と逆境の中で救って下さり助けてくださった神様、伝道の使命と熱情を下さり献身するようにしてくださる神様に感謝と賛美を捧げます

私はキリスト教の家庭で末娘で生まれ幼い頃は母をついて教会に通い、神様に礼拝を捧げるのが好きでした。しかし、青年の頃から次第に神様と隔てるようになって社会生活をする中で結婚をしました。カトリックを信じる家庭の男と結婚するのを反対する家族を無視して結婚をしましたが、家族の心配の通り結婚生活が大変でした。 結婚生活に対する良い夢が壊れて特に酒好きな旦那のせいで大変で苦痛が多かったです。

　そうする中にある日、夢でイエス様が私の家に来られた幻を見ました。すると再び教会に通いたい心が切になりました。隣の家に住む区域長を探しに行ってその方の助けで恵みと真理教会の聖徒になりました。新しい心と覚悟を持って聖書に掲示された神様の創造主であり救い主である神様を信じ仕える信仰生活を始めました。その時が1992年でした。恵みと真理で満たされ説教を聴き悔い改めながら多くの涙を流しました。二人の子供を連れて熱心に礼拝を捧げて区域長をついて頑張って伝道しました。

2年後に神様の恵みでサンボン新都市内のアパートに入居しました。神様が区域長の職分を下さって楽しくて感謝する心で教会を仕え人々を伝道しました。すると、カトリックを辞めて教会を通うのを知った婚家の家族と旦那は私を悪い言葉で迫害しました。しかし、私は挫折しなく礼拝と伝道に力を尽くしました。その後、首区域長の職分を受けて信仰生活に頑張っていた2003年に神様が大きい家で生活するように福をくださいました。

ところが、突然家に大きい苦難が来ました。中学校2年の末息子が酷いうつ病と精神分裂症状を見せて治療のため学校を辞めて病院に入院しました。私たちの家族は悲しみになって暗闇がいっぱいになりました。高校3年になった長女はそんな環境で入試試験準備があまり出来なくて結局願っていた大学に入らなくて大きい挫折感に落ちました。かてて加えて舅も病気が悪化され 肝臓癌で世を離れました。

私の家庭はか 自力で一家を成し立てる舅のおかげで豊かな生活をしましたが、危機に直面するようになりました。亡くなる前に財産など整理をしないまま舅が亡くなったので、その後、家族の間に様々な葛藤がはじめました。信仰生活の理由で今まで婚家に多くの迫害を受けた私は旦那に法律的で財産相続を受けて独立しようとしました。しかし、旦那は婚家の家族の財物に対する粘りつよい執着と強圧を勝つことが出来なくて財産放棄書に印鑑を押してしまいました。

その後、小舅が私達の秘かに事業場をもっと拡大して他の所に移転しながら旦那を会社の業務から疎外させました。兄弟と家族の話を信じて決断した旦那は裏切られたので何年間, 怒りと悲しみの中でお酒を飲みながら時間を過ごしました。私達の家族は仕方なく銀行からお金を借りて生活をしました。私も重なる苦難を担えられなくて数年間うつ病と不眠症で悩みました。不安障害とめまい症状まであって長い間薬を飲まなくては一時間耐えられない痛みがありました。薬を飲んでも続ける緊張で何も効果がない時が多かったです。結局、家が競売で他人に渡ってすべての財産を失いました。

そんな状況で私は礼拝に参席して聖書のヨブ記の御言葉を黙想しながら慰めと力を得ました。心を新たにしてアンサン市で家を借りて引っ越ししました。旦那も会社に入って働き始めました。私は体と心がまだ完全に回復しない状態でしたが礼拝に休まずに伝道をしました。

そうする中である日、服用していた薬がなくなり苦痛で苦しんだ中で信仰が弱くになり、全て神様を信頼しなかった私の姿を考えるようになりました。すぐ すぐに息が切れそうな苦痛が襲ってくる中で神様に悔い改め祈りをしました。死の危機を感じて切ない心で助けてくださいと神様に叫びました。そして無意識の状態になりました。

意識が戻って起きたら、明るい日差しが窓辺にはだかつて私の顔を照らしていました。久しぶりに熟眠した後でした。そして私の心は言葉で表現できないほど平安と自由が来ました。その瞬間私は神様が私の全ての病気と痛みを治療してくださるのを直感して喜びの感謝の涙を流しました。神様の癒しの恵みが望んで主が下さる平安と自由と喜びが私の体と心を支配しているのを感じて私を生かしてくださった神様に感謝を捧げました。これから私の人生のすべてを主に捧げ主の事に献身すると決断を捧げました。私の存在の理由と人生の目的はただ主だけだと念を押しました。

主に私の全てを委ねて主の事に全身全力をする生活をしてたまには旦那に適当にすると小言を聞きました。しかし、私は妥協することなく最善を尽くして主の事をしました。すると" 脱穀している牛に口籠を掛けてはならない。" （申命記25：4）とおっしゃた御言葉のように環境の扉が開いて思い切り主の事をするようになりました。家計が大変の中でも旦那が私の信仰生活を認めて支援してくれました。完全に主の事に専念するようになって人生に幸せになりました。

まだ目で見えて手でさわる土地の肥える福がなくても私は期待し希望しながら、世から得られなくて奪われない神様が下さる神霊な恵みと幸せを享受しながら礼拝中心、教会中心の生活をしています。" 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。（カラテヤ信徒への手紙2：20）この御言葉を心に入れて魂の救いのため頑張っています。福音を伝えると人々に迫害をされたり、憎しみと妬みの対象になりますが、神様が私の主人になって下さり私に伝道の使命をくださったので、イエスキリストの神様を伝えなくては生きられません。

私に聖霊様が豊かな伝道の実りを得るように御業をしてくださって感謝します。様々な試練と迫害の中で痛んで傷つけられ時もありますが、そのときことに神様が御言葉と聖霊でもっと大きい慰めと力を下さり主の恵みと愛を体験するようにして下さり使命を与えて下さって感謝します。苦難を通して信仰が堅固になり内面的に信仰が成長する踏み台にして行い、忍耐しながら黙々と伝道に専念するように導いて下さり感謝します。

私はこの終わりの時代、この悪い世の中で殉教を覚悟した精神と決断がないと使命を担えられないと考えました。殉教の覚悟でただ神様の御言葉だけを委ねて大胆に福音を伝えます。" キリスト. イエスの立派な兵士として、わたしと共に苦しみを忍びなさい。（テモテへの手紙二　2：3）という御言葉をくださり伝道の使命と救いの熱情を下さったのでどんな苦難があるとしても決してやめることがありません。世の中の誰も私を止めることはできません。堅固な信仰で決断した通りこの命が終わる日まで福音伝道のため献身します。 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめます。現在の私がいるようにした神様、私を練達させて使命を下さる神様に感謝と賛美し全ての栄光を主に捧げます。

[信仰コラム]　何をどのように信じるのか?

"わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、／わたしのたましいはこれを喜ばない」。"（ヘブル人への手紙 10:38）

全ての人はある対象を信じる能力を持って生まれます。そして何をどのように信じるのかというのはそれに相応する現実と状況を経験させます。私達が何をどのように信じるべきかを調べてみましょう。

第一、イエスキリストによる罪の許しを徹底に信じなければなりません。人は神様から罪の許しを得られないと人生として生まれたのが福ではなく災いになり呪いになります。人が神様から罪の許しを受ける道は一つだけです。私達の罪を代わりに担当なさい十字架につけられて死なれ、お墓から蘇られたイエスキリストを自分の救い主として信じ、迎接することです。財物や権力、学位や善行、苦行やその何も必要ではありません。

第二、イエスキリストによって正しくなることを完全に信じなければなりません。イエスキリストを信じると正しくなります。律法を守って正しくなろうとする考えは捨てるべきです。イエス様を信じた後に律法を守って自分の義を加えようとする考えもしてはなりません。正しくなることにおいて私達の資格と功労は何の役に立ちません。ひたすら私達の罪を担われて釘つけられて死なれ復活なさったイエスキリストを信じることだけで得られる神様の義であります。

第三、イエスキリストを信じる人は神様の子になることを固く信じなければなりません。ある身分と処置にある人だとしてもイエスキリストを信じると神様の子という身分と地位を持ちます。私達が神様の子という身分を得るようになったのは全的に神様が施された愛によるのです。この世で人々がとても羨む身分と地位を持っても神様の子という身分に比べるとつまらないことです。

第四、イエスキリストの御名で求めることを父なる神様が応答してくださるという御言葉を信じなければなりません。神様を敬う者のお祈りを神様がお聞きなさり適切な助けを施してくださった事件が聖書に数多く記録されています。イエス様がお祈りの応答を約束なさった御言葉も多くあります。聖徒達は癒しの御言葉に対する知識と信仰を持ってお祈りして癒される神様の恵みを享受すべきです。神様は私達がお祈りする問題が何であっても解決してくださる権能を持たれておられます。しかし、要求した通りに応答されない場合があります。だとしてもお祈りするのが有益です。神様が信仰で求めた者に最善の応答をくださったということを分かる日が必ず来ます。

第五、イエスキリストを信じると天国に行くことを信じなければなりません。イエス様は公的な活動の始めから"悔い改めよ、天国は近づいた"という御言葉を宣布なさいました。イエス様は天国に関して様々な方面でたくさんの御言葉を言われました。ヨハネの黙示録には天国の実状について詳しく記録しておきました。

第六、イエス様の再臨を慕って信じなければなりません。聖書にはイエスキリストの再臨という神秘的で驚くべきな約束があります。イエス様がこの世に再びお越しになる時は、不信者には恐ろしい審判の日になるが聖徒達には救いの完成という点で待ち遠しい光栄の日になるでしょう。称賛と賞、冠を受ける日になるでしょう。

第七、復活に対する主の約束を信じなければなりません。イエス様が人間の罪を担われて死なれ、お墓に葬られてから三日目に蘇られることで私達の罪を成功的に完全に贖われたことを明らかにしてくださいました。イエスキリストは復活の初の実でおられ、キリストに属した人々の復活はキリストが再臨なさる時に起きます。復活した体は神霊な体であり、天に属した形像を被り死なない完全な体です。

皆さんは、このような信仰によってそれに相応して合う現実と状況を全て経験するよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

心を新たにしなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人は自分に心があることをよく知っています。そして心という用語を多く使用します。聖書にも心という単語が非常に多く使用されています。しかし、心とは何ですか？と聞くと一言で明確に説明することが困難です。心の機能と役割は非常に多様であります。心は考えて感じて悟って決定することをします。知性と感性と意志の本に基づいています。人は心を通して神様のしわざと言葉の契約を覚えて、神のみ旨を分別します。神に求め、神を恐れています。心の状態は、信仰と生活に大きな影響を与えます。したがって、自分の心を慎重に振り返り、最良の状態になるようにしなければなりません
「油断することなく， あなたの 心を 守れ，命の 泉は， これから 流れ 出るからである」（ **箴言 4:23**）しました。今日の本文には、**「あなたがたは， この 世と 妥協してはならない． むしろ， 心を 新たにすることによって， 造りかえられ，何が 神の 御旨であるか，何が 善であって， 神に 喜ばれ， かつ 全きことであるかを， わきまえ 知るべきである 」**しました。ここで重要な部分は、心を新たにするように言われています。これから心を新たにするために、私たちが実践すべきことを見てみましょう

第一は、高くなった心を下げる必要があります。

人が持つ不満には 2 種類の性格があります。一つは、状態を改善するために研究して努力している建設的な不満があります。他の一つは、恨んで不平にする破壊的な不満があります。
荒野を行進していたイスラエル人は、生活が非常に不便でした。数百万人の老若男女が一緒に行進しました。長い期間の旅行でした。生活必需品は限定されそのような状況で、子を産んで育てるべきでした。満足できない状況であることは言うまでもないです。イスラエル子孫の不満は、最終的に神への不平不満に表出しました。彼らの不満をこの方法で示すことは状況をもっと悪化させました。恨み不平する者は、最終的に懲罰を受けてカナンに入らず、荒野でさまよって死亡しました。もし彼らが心を抑えたら不便な荒野生活の中でも、かえって感謝があふれるようになったことです
振り返ってみると、エジプトの奴隷生活から自由を得たのが、完全に神の力からなったので身に余る恵みです。彼らが進行している荒野は昼と夜の気温差が非常に大きかったです。神が昼は雲の柱でそれらを上でいただき涼しくし、夜は火の柱で火があって暖かくしました。水を入手できない状況では、神の指示のどおりに、モーセが杖で岩を打つと、膨大な量の水が湧きました。安息日を除いて毎日朝に天からマンナが降りてきました。それだけでなく、荒野の生活 40 年の間に自分の服がきれないし、足が痛くないでした。
彼らは毎日感謝の歌を歌って感激の涙を流さなければならないでしようそれでも彼らは神に向かって恨み不平を並べました。これらの行動をしたのは、彼らが心を高め、高慢になったからです。心が高慢になると、自分が持っているすべてのものを当然と思うようになります。一方、心を低くし、謙虚になれば、自分が持っているすべてのものを神の恵みで知って光栄に思うようになります。心を下げると必ず神への感謝が心の中で湧きるようになります

第二は、かたくなな心を破らなければなりません。

人の心は概ね頑固で硬くです。このような心は苦難を通さなければなかなか目が覚めません。聖書に記録された多くの人が試練と苦痛を介して徹底的に壊れた人になり、その結果として、神の恵みを大きく受けることになりました。苦難はかたくなな心を破るために使用されるツールです。したがって、頑固でかたくなな心を破る神の摂理を早く順応しなければなりません
かたくなな心の代表的な例がエジプトの王パロです。神の罰がモーセを通してエジプトに下ろしました。血の災い、カエルの災い、ぶよの災い、 あぶの群れ災い、家畜の疫病が生じ死ぬ災害、人と獣にはれものの災害、あら災害、雷の災害、昼間が夜のようになる災害が連続する災いもありました。パロには災いがある間は屈服するようにして途中に過ぎれば再びかたくなになりました。そうするうちに第十の災いがエジプトの各家ごとに、 ういごは、どんな人であれも、獣でも、すべて殺されるようになりました。パロの息子も例外ではありませんでした。やっとパロは、イスラエルの民を解放しました。イスラエルの民は、エジプトを離れて神が、彼らの先祖と契約されたカナン地に向かって行進しました
イスラエルの民が紅海の前に到達して天幕を張ったという事実がパロに報告されました。すると再び心がかたくなになったパロがイスラエルの民を捕らえるために戦車と騎兵を率いて追撃しました。神は紅海の中の道を出して、イスラエルの民がすべて無事に渡ってくださいました。この奇跡を見てもパロはまだ心がかたくなになって、彼の軍隊がイスラエルの民を続け追撃にしました。彼らが海の中に達したとき分かれた水がまた合わせ流れました。エジプト軍はすべてが水蔵されてしまいました
出エジプト記 7 章から 14 章にわたって神がパロの心をかたくなになったという言葉が何度も記録されています。これらの言葉は、神が柔和なパロの心をかたくなにされるようにされたという意味ではありません。この言葉の真の意味は、神が直接かたくなな心のままに放っていたと意味です。詩篇 81 篇 12 節に記録されることを**「それゆえ， わたしは 彼らを そのかたくなな心にまかせ， その 思いのままに 行くにまかせた」**しました。神様が私たちを放置しておくと、かたくなな心を免れないでしょう。神がモーセを通して奇跡を行い、パロのかたくなな心を破るとしましたがパロは最後までこだわって抵抗しました。不幸と災いは自らとることです。かたくなな心、固い心が壊れを受け取ってもいい畑になれば、神の言葉が彼の人生に根を下ろして育って多くの実が結びます。

第三は、先入観と自己主張に満たされた心を空きにして置く必要があります。

人の心には、先入観があります。先入観というのはどんなことについて以前から頭の中に含まれている慢性的な観念です。神のみ旨に逆らっている先入観や主張は容赦なく捨てて心を空きにする必要があります。ところが、そのことが容易ではありません。
使徒パウロは使徒になる前に、教会を恐ろしく迫害しました。彼は聖書学者であったが、聖書を自分で解釈し、すべてのことに、イエス・キリストに敵対することが神を仕えることと信じて行動しました。彼が外国にいるクリスチャンを捕らえ、エルサレムに引かれしようと人々を率いて行きました。ダマスコに近づいた時でした
正午の太陽よりも明るい光が突然彼を囲み当たるので、その光に圧倒されて地面に倒れました。それから ″サウロ、サウロよあなたはなぜわたしを迫害するのか」という声が聞こえました。「主よ、主は誰ですか？」と質問したら、「私はあなたが迫害しているナザレのイエスだ」と答えました。その場で、パウロは、イエスの誤った先入観を完全に捨てました。そしてすぐに、イエスを自分の救い主と主で受け入れました
その日以来、パウロは、イエス・キリストに向かって常に心を空きにしていました。 「主よ、私が何をしたいのですか？」という態度を堅持しました。彼が宣教活動をする中、聖霊が、アジアでの言葉を伝えることをふさがしたので、同行と一緒にブリューキアとガラテヤ地方をあまねく通ってムシア近くに達しビテニヤに降りて行こうと努力しました。やはり聖霊が許したくないので、ムシアを通ってトロアに行きました。夜にパウロに幻が見えたマケドニヤ人が立って、彼に懇願して言った、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けなさい。」としました。パウロがこの幻を見た後、 同行と共に直ちにマケドニヤに出発を努めました。これは、神が彼らに福音を伝えるようにしたことを確信していたからです。そして、自分の計画を白紙化し、地中海の向こうに渡って行きました

クリスチャンは、キリストのしもべです。主の御旨を尋ねなければなりません。主の御心に逆らっている自分の先入観と主張は容赦なく捨てて心を空きにする必要があります。使徒パウロは、 ガラテヤ人への手紙で記録することを**「 生きているのは， もはや， わたしではない． キリストが， わたしのうちに 生きておられるのである． しかし， わたしがいま 肉にあって 生きているのは， わたしを 愛し，わたしのためにご 自身をささげられた 神の御子を 信じる 信仰によって， 生きているのである 」（ ガラテヤ人への手紙 2:20）**しました。
聖徒の皆さん、高慢の心は下げ、かたくなな心は破りながら、神の考えと御心に逆らっている先入観と主張した心は空きにして仕事を積極的に行うので、常に心を新たにしてをください。